単元構造図

３章４節 中部地方～産業～	中部地方の自然環境や交通・通信網などの地理的事象を基に、東海・中央高地・北陸の産業の特色を考察することができる。さらに、中央高地に位置する地元の高山市に焦点を当て、冷涼な気候や高速道路網（東海北陸自動車道など）の開通を背景に、夏秋トマトの拡大が進展するなど、人々の工夫や産業が時代とともに変化・発展してきたことをとらえ、持続可能な地域づくりについて考察することができる。

産業の発展を支えているものは何か。

第１時　中部地方をながめて【知・技】【主体】○

中部地方の自然環境にはどのような特色があるのだろうか。

中部地方は、日本アルプスを中心に「東海」「中央高地」「北陸」の３つに分けられ、それぞれ異なる自然環境を持っている。東海は冬でも温暖だが、北陸は豪雪地帯であり、中央高地は冷涼な気候が見られるなど、それぞれの特色を生かした産業が盛んである。

第２時　【知・技】○
特色ある東海の産業

なぜ東海では自動車工業や施設園芸農業が盛んなのだろうか。

東海地方では、早くからせんい工業が発達し織物機械を生産する技術があったことや、高速道路や大型船が停泊できる港など製品の輸送に便利な条件が揃っていたことから、輸送機械工業を中心に日本有数の工業地帯として発展してきた。また、用水の整備や大消費地への近さを活かした施設園芸農業も盛んである。

第３時　【知・技】○
特色ある中央高地の産業

中央高地（長野・高山など）では、どのような気候や交通を活かした産業が発達したのだろうか。

中央高地では、昼夜の気温差や水はけの良い扇状地を活かした果樹栽培が広がっている。工業面では、製糸業で働いていた人々の労働力やきれいな水、戦時中の工場の移転をきっかけとして精密機械工業が発展した。

第４時　【知・技】○
北陸の産業と雪や歴史を活かした工

北陸で発展している産業には、どのような特色があるのだろうか。

北陸地方では、土地改良や豊富な雪どけ水を活かすことで日本を代表する水田地帯となり、米を原料にした食品工業も発達した。また、農業ができない冬の期間の副業として行われてきた地場産業が継承され、特徴的な工業が発達する土台となっている。

第５時　地元の高山はどのような産業を行っているのか【知・技】●

飛騨高山はどのような産業をおこなっているのか。

地元の高山市では、豊かな森林資源を活かした木材産業や観光業に加え、中央高地特有の夏でも涼しい気候（冷涼な気候）や昼夜の寒暖差という自然環境を活かした農業が盛んである。特に、平地では暑くて栽培が難しい夏から秋にかけて生産される「飛騨の夏秋トマト」や「ほうれんそう」などの高冷地野菜は、高山の主要な産業となっている。

第６時　日本の食卓とトマトについて【思・判・表】○

なぜトマトは野菜の中で最も生産額が高いのか。

トマトは夏野菜であるが年中食卓に並ぶ日本で一般的な野菜である。そのため日本では指定野菜に定められて、補助金を出しながら生産を支えている。また、一年中トマトが食べられるように自然環境を利用して促成栽培を行ったり、自然環境に振り回されないように雨による病気や割れを防ぐ「雨よけ栽培」を行ったりして工夫しているから日本の食卓に出続けることができているからなのだな。しかし、近年は猛暑で平地での栽培が難しくなっている。それなのに、なぜ飛騨ではトマト作りが盛んなのか知りたいな。

第７時　**高山の産業の変化と私たちの生き方**【思・判・表】●

なぜ飛騨のトマトは夏秋期に全国１位の出荷量になれたのか。

飛騨でトマト農業を行うのは、厳しい自然環境や変化に向き合う苦労があっても、高山の「冷涼な気候」という地理的強みを活かし、交通網やJAなどの支えによって商品を大消費地に送り出しているからである。地理的条件を活かした産業の発展は、地域の姿をも変えている

自然に振り回されるだけでなく、雨よけ栽培や高速道路などの交通網を使ってピンチを乗り越え、としての価値を高めているからこそ、若者が転職してでも挑戦する魅力があるのだと分かった。自分も将来、変化する環境の中で自分の強みをどう活かし、人と協力して価値を生み出していくかという視点を大切にしたい。

第８時　パフォーマンス課題【思・判・表】【主体】●

中部地方の持続可能な産業に向けて
○地方の産業は、【自然環境 / 人々の工夫や努力 / 歴史の積み重ね】に支えられて発展してきたと言える。なぜなら、～（各地域の具体例を挙げる）～だからである。これらを踏まえ、これからの持続可能な地域づくりには～（生徒独自の考え）～が必要だと考える。

単元学習後の生徒の意識

中部地方は『東海』『中央高地』『北陸』で地形や気候が大きく異なりますが、どの地域の人々も自然環境を生かし、雪などの厳しい環境を克服する工夫を重ねて、特色ある産業を発展させてきたことが分かりました。私たちの住む高山市も同じで、ただ『夏が涼しい』という自然の条件だけでなく、自然に振り回されないための雨よけ栽培といった農家の方の工夫があったからこそ、産業が発展してきたのだと気付きました。特に、飛騨トマトが高く売れるブランドになり、全国でも有数の出荷量を誇る大産地に変化した背景には、東海北陸自動車道やバイパスの開通が大きく関わっていると分かりました。交通網が整備されたことで、名古屋や関西などの大都市圏へ早く到着できるようになり、急カーブが減ってトマトが傷まずに品質を保ったまま運べるようになったのだと納得しました。さらに、こうした昔からの人々の努力や、道路が便利になって大消費地と強く結びついたことが、今の高山市に移住者が来るような姿につながっているのだと実感しました。これからも高山の農業を発展させていくためには、豊かな自然環境を守りつつ、猛暑などの気候の変化に対応し、交通網の強みや新しい働き方を活かしていくことが必要だと思います。これからの持続可能な地域づくりには、こうした地理的な条件を活かしながら変化に対応していく視点が大切だと考えます。